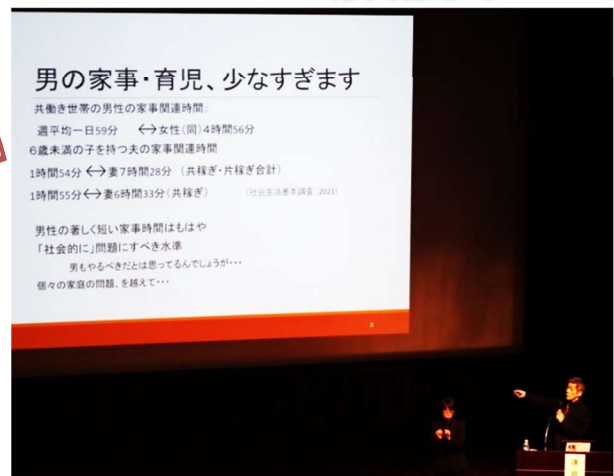


# さざなみ

～笑って考えよう 家庭のこと  
仕事のこと 未来のこと～

昨年の11月12日に男女共同参画講演会を開催！！  
たくさんの方にご参加いただきました  
(詳細は3ページ)

子育てで男に  
でけへんことはない！



ジャンボ宝くじを  
必ずあてる方法？

## 内容

- ★第3回男女共同参画セミナー  
男女共同参画講演会活動報告
- ★2023 推進員活動を振り返って
- ★2024年度男女共同参画推進員募集



# SDGs ゴール5 「ジェンダー平等」の達成に スポーツができること

令和5年10月7日(土)赤坂ふれあいセンターにて、第3回男女共同参画セミナーを開催しました。

元女子プロサッカー選手としての経歴もお持ちの野口講師からは、女性アスリートとして活躍する上で困難だったこと、男性との違いなど自身の体験を踏まえて講演いただきました。



【講師】野口 亜弥さん

成城大学専任講師

一般社団法人 SCP Japan 代表

参加者数 38人 (女性25人、男性13人)



▲スポーツの歴史とジェンダーについて  
わかりやすく講義いただきました

### 参加者の声

「男らしく、女らしく」と部活動の中で育ち、当時はそれが当たり前だと思っていました。セミナーではジェンダーの課題をクリアにして説明していただき、よく理解できました。「再生産」という言葉にハッとさせられました。

スポーツにおける「固定観念の力」とその理由が特によく理解できました。社会一般のジェンダーの問題も、スポーツに特化してみると、このように明らかにされることが多く、当たり前のおかしさを突き付けられた気がしました。

今はスポーツに関しては女子もできるようになって嬉しいです。応援しています。

### スポーツ界から遠のいていった女性たち～第3回セミナーを受講して～

第3回セミナーは、野口講師の実体験をふんだんに盛り込み、私たちにも思い当たることや、気づきを与えてくれる内容でした。

野口講師の体験が時を経て、どのように環境が変化してきているのか、令和時代のスポーツ界におけるトランスジェンダーアスリートや女性がスポーツから遠のいて行く年代とその理由など、とても興味深く拝聴しました。

野口講師は小学生の頃からサッカーを続けて行く中で、サッカーをしたいだけなのに、中学では「女子はサッカー部に入部できない」と言われ、それには疑問を持たず、通学している中学ではなく外部で女子がサッカーをできる団体を探して掛け持ちで通わなければならなかったそうです。

現在は、2021年に女子プロサッカーリーグが設立され、2023年には12チームが加盟しているようですが、なでしこジャパンのワールドカップ優勝などの実績が積み重なってきたからでしょう。

なでしこの選手でも当時はアルバイトで生計を立てながら練習しており、やっと待遇が男性と同様になりましたが、Jリーグの設立1991年から遅れること30年です。

ジェンダー平等には、既にいつからか分からないほど昔から壁ができてしまっており、その壁を取り除ければ一番良いことですが、それはなかなか難しいと思います。

まず、その壁が見えて「どうして？」と疑問や気づきができるように、教育や機会の平等が必要でしょう。初めから男性・女性・トランスジェンダーも含めた平等を念頭に、ルールや環境を整える必要について講演を通じて再確認できました。(中村推進員)

# 「笑」って考えよう！ 家庭のこと 仕事のこと 未来のこと

令和5年11月12日(日)文化芸術センターなごみの米屋スカイタウンホールにて、瀬地山さんをお呼びした講演会を開催しました。出産後も女性が働くことや男性の家事育児への参加が、ひいては少子化対策につながっていくそうです。どうしても固くなりがちなテーマではありますが、ユーモアを交えた瀬地山さんの軽快なお話にて、会場からは笑い声も聞こえました。



【講師】瀬地山 角さん  
(東京大学教授)

## 参加者の声

女性が働く事について、新たな見方を発見することができました。

子どもがまだ2歳の女の子で、40代の私が育った時のジェンダー意識のままではいけないと改めて思いました。

笑い話もあり、非常に聞きやすい講演でした。“妻の給料は、夫がどれだけ頑張ってもまかなえない”という話が印象に残りました。まだまだそういった認識をしている方は世の中に少ないように思います。

0歳児の子がいて、妻に職場復帰してもらって、私が日中の育児を担当しています。講演を聞いて今の育児スタイルに自信を持つことができました。また、日本の育児の問題が根深いことを再認識できたことも興味深かったです。



▲会場いっぱいの参加者からは笑い声がお子さんと一緒に家族で参加の方も

参加者数 160人 (女性117人、男性43人)

## 男性の家事育児がジャンボ宝くじに繋がる？

### ～講演会を受講して～

今回、東京大学で大人気講義をされている、ジェンダー研究者の瀬地山角さんにご自身の子育て経験を交えながら、講演をしていただきました。

ジェンダーとは、社会や文化がつくる性別又は性別的役割のことです。性別にかかわらず、その個性と能力を発揮することができる社会を目指す、男女共同参画社会基本法で位置づけられているように、男性・女性といった二分法に押し込められるのではなく、性別からの自由と自分らしくいられることが大事だということです。個人差は必ず性差を超えます。

誰もが自分らしく生きやすい社会の構築には、女性だけの問題、個々の家庭内の問題としてのみ捉えるのではなく、男性の産休取得やワーク・ライフ・バランスの変革が必要であり、企業にも、子育てコストを労働者に還元していくことが求められています。

このように、みんなで介護や子育てのコストを払うことで、将来の少子化を防ぎ、再生産可能な社会が実現できることを、植林をする林業者と植林をしない林業者に例え、分かりやすく説明していただきました。

また、ジャンボ宝くじを必ず当てる方法として「女性が出産後もフルタイムで就労継続すること」それには「男性の家事育児の時間を少し増やすだけで実現可能！しかも、年金もかなり違う！よって、夫の家事育児の時給はけっこう高い！！」と、笑いを交えた説明には、誰もが納得したのではないのでしょうか。

講演を聞いて、私も、日常の身近なところから活かしていきたいと思いました。会場が笑いにつつまれた楽しく有意義な講演をありがとうございました。

(佐瀬推進員)

# 2023 推進員活動を振り返って



定期的を開催する会議では、自由に話しながらアイデアを出し合いました



初めてのセミナー開催。講師の越智さんを囲んで



セミナーをみんなで作り上げました

受付がんばります！



準備はまず会場設営から  
力仕事もがんばりました



セミナーで学んだことを基に、ワークショップ  
を実施。グループで意見を発表しました



女性活躍の秘訣をインタビューする  
ため、企業を訪問しました

SAZANAMI INFORMATION

## さざなみインフォメーション

### 2024年度 男女共同参画推進員 **募集中**

2024（令和6）年度、一緒に活動していただける男女共同参画推進員を募集します。  
だれもが活躍できる社会を目指して「なにかできることはないかな……」  
「なにか活動したいな……」と思っている方、ぜひ一緒に活動しませんか。

- 主な活動内容：  
男女共同参画講座の企画・運営、情報誌さざなみの作成など  
推進員同士で話しあう会議・勉強会など（年8回程度）
- 募集人員：10人
- 応募条件：成田市在住の18歳～74歳の方（2024年4月1日現在）
- 応募方法：  
申込書（住所・氏名・性別・生年月日・電話番号・これまでの  
社会活動等があれば記入）を直接・郵送・Eメール・WEB申  
込のいずれかで市民協働課まで  
詳しくは市ホームページか市民協働課（TEL：20-1507）へ
- 応募期限：令和6年2月26日（月）

WEB 申込

